

廃棄物の焼却に係る共通基準

(令第6条第1項2号イの規定を受けた令第3条第2号イに定める規則第1条の7)

号	構 造 基 準	対 応	
1	空気取入口及び煙突の先端以外に焼却設備内と外気とが接することなく、燃焼室において発生するガス（以下「燃焼ガス」という。）の温度が摂氏八百度以上の状態で廃棄物を焼却できるものであること。		
2	燃焼に必要な量の空気の通風が行われるものであること。		
3	燃焼室内において廃棄物が燃焼しているときに、燃焼室に廃棄物を投入する場合には、外気と遮断された状態で、定量ずつ廃棄物を燃焼室に投入することができるものであること。		
4	燃焼室中の燃焼ガスの温度を測定するための装置が設けられていること。ただし、製鋼の用に供する電気炉、銅の第一次製錬の用に供する転炉若しくは溶解炉又は亜鉛の第一次製錬の用に供する焙焼炉を用いた焼却設備にあつては、この限りでない。		
5	燃焼ガスの温度を保つために必要な助燃装置が設けられていること。ただし、加熱することなく燃焼ガスの温度を保つことができる性状を有する廃棄物のみを焼却する焼却設備又は製鋼の用に供する電気炉、銅の第一次製錬の用に供する転炉若しくは溶解炉若しくは亜鉛の第一次製錬の用に供する焙焼炉を用いた焼却設備にあつては、この限りでない。		

（令第6条第1項2号イの規定を受けた令第3条第2号イに定める環境大臣の定める焼却の方法）（平成9年8月29日厚生省告示第178号）

号	焼 却 の 方 法	対 応	
1	煙突の先端以外から燃焼ガスが排出されないように焼却すること		
2	煙突の先端から火炎又は日本工業規格D8004に定める汚染度が二十五パーセントを超える黒煙が排出されないように焼却すること。		
3	煙突から焼却灰及び未燃物が飛散しないように焼却すること。		